

## 令和4年度 葛飾区学力調査（6年生）結果の分析

### 【国語】

- 基礎問題・応用問題ともに、平均正答率が全国や区の平均を上回っている。特に、応用問題では区の平均を5ポイント上回っていることから、設問に対し既習事項を生かして問題に取り組めたことが伺える。
- 「言葉・情報・言語文化」の領域では、区の平均を6ポイント上回っていることから前学年までの知識・技能が概ね身に付いていることが伺える。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国や区の平均より3ポイント上回っていることから、要点を意識しながら話したり、相手の意図をとらえながら聞いたりする力が付いてきたことが伺える。
- 「読むこと」の領域では、平均正答率が区よりも3ポイント上回っている。段落相互の関係を読み取り、文章の構成を正しく理解することができた。また、話し合いの文章から、前後の内容を読み取り、文章を具体的に書き直すことができていた。
- ▲「書くこと」の領域における「条件に従って、会話文の空欄に入る言葉を書く」という問題で、区や全国の平均を下回っていることから、指定された形式で記述したり文章を読んで文脈に合う文章を記述したりする力を伸ばしていく必要がある。また、昨年度の同一母集団と比較してみると、平均正答率が教科総合では前回との大差がないものの、記述式問題で大きく下回っていることが分かる。その点から、「書くこと」の領域や記述問題を意識して指導を行っていく。

### 【算数】

- 基礎問題・応用問題ともに、平均正答率が全国や区の平均を上回っている。特に、応用問題では区の平均を9ポイント上回っていることから、既習事項を活用しながら問題に取り組めたことが伺える。
- 「思考・判断・表現」の観点において、区の平均を10ポイント以上上回った。また、この観点は、昨年度の同一母集団と比較してみた際にも、7ポイント上回っていることから、日頃より、計算の工夫をしたり日常生活に生かしたりすることで思考力・判断力・表現力が高まっていると考えられる。
- 「データの活用」の領域では、平均正答率が区や全国の平均を8ポイント上回った。この領域は昨年度に全国の平均を1ポイント下回っていたが、グラフを読み取った上で問われている内容の答えを導けるよう指導したためか、平均正答率が上がったと考えられる。
- 「数と計算」や「変化と関係」の領域では、区の平均より8ポイント以上、上回っていることから、前学年までの知識・技能が概ね身に付いていることが伺える。
- ▲出題形式が選択式の問題では、区や全国の平均を上回ったが、昨年度の同一母集団と比較すると、下回る結果となった。今年度、選択式で平均正答率が低かった問題の多くが「図形」の領域についての問題であることから、図形の性質や面積の求め方を再度確認し、学習したことを確実に定着させる指導を行っていく。